

安八の昔話

(141)

西蚊塚地区

文 日本児童文学者協会会員

小森 波鏝子

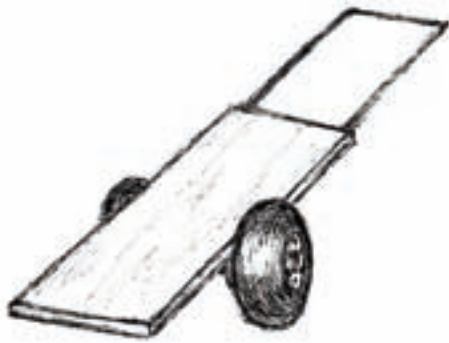
空気とゴムとそしてタイヤ

戦争が終り生活の在り方がちよつとずつ変りかけたそんな頃やった。飛行機のタイヤが荷車に使われるようになったんやさ。

木で作った細い輪のかわりに取り付けた、空気の入った太つといごムのタイヤは慣れるまで変ってこなもんに見えたわな。

平な道は今までの輪でもいいかなと思つたけど、ガタく道では小さく弾みながら沢山の荷物を積んどつても楽らく引っぱれたんやさ。前よりか荷車が軽つなつたような気がした。

タイヤと同じように空気の入つた二本の輪で動く自転車もたまにしか見かけんかったから手に入れるのは大へんやつたやろつが、せっかく買ったのに乗るとごえらい叱られたわな……。



協力

西蚊塚区長

協力者

末松	勝美さん	(73歳)
岩田	豊さん	(84歳)
坂	孝男さん	(83歳)
堀	進さん	(享年78歳)

ちよつと寄り道『安八町』

〜歴史が動いた名所 出世の松・薬師堂(安八町森部)〜

◆出世の松(写真下)

安八町森部地内(名木神社北側)

◆森部薬師堂(写真上)

安八町森部字下河原283-1

永禄4年(1561)、この地で織田信長軍と斉藤龍興軍とが対戦し、織田軍が勝利を収めました。この戦いで前田利家は、一番に敵軍に討ち入り、首級2つ信長に差し出し、ようやく帰参を許されました。従つて利家にとっては、後の加賀百万石の大名になる出世の門出となる戦いでした。

また、その首実検をしたのが薬師堂前で、戦死者が祀られています。

「鎧かけの松」は首実検のあり、信長が鎧を掛けた松として伝えられています。



前田利家の人生を変えた、

この場所からあなたも歩いてみませんか？